

平成27年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	図書館・文化ホール等建設事業			
予算科目	10 款 5 項 6 目			
総合計画での位置付け	教育・文化・スポレクの振興～うるおいと生きがいのひとつづくり～ 生涯学習の推進			
所管課情報	担当課:	都市住宅課	電話番号(内線):	567
記入者情報	所属長:	武智 年哉	担当責任者:	三谷 陽紀
実施期間	【開始年度】平成 25 年度 【開始年度】平成31年度			
事業の対象	市民			
事業の必要性	生涯学習や創造・文化芸術活動を通じて未来を担う子どもたちやそれを支える人たちが育つだけでなく、「ひと・まち・ぶんか」が出会い、つながっていく仕組みを創るため			
施工方法、場所	【施工方法】	請負	【施工場所】	伊予市米湊
運営方法	【運営方法】	直営・指定管理	【運営費(予定)】	
事業の目的	老朽化・狭隘化・バリアフリー等に問題のある図書館・文化ホール・公民館を複合施設として整備することで、多様な目的で訪れる幅広い利用者の要望に合った活動空間が提供でき、新たな出会い・発見・交流の機会を創設する。			
事業の内容	図書館・文化ホール・公民館 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造3階建て 述べ床面積:5,567.24㎡駐車場 鉄骨造平屋建て(2層屋上駐車場) 延べ床面積:1,723.27㎡			
改善策の具体的な取り組み(当初)	管理運営計画ワークショップで出された意見や要望について、可能な限り設計に反映させる。			
改善策の具体的な取り組み	活用可能な補助金制度について、検討を行なう。			

事業費及び財源内訳					
項目	26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算	
事業費	直接事業費	40,552	99,582	224	70,997
	人件費	19,885	6,901	3,450	6,901
	合計	0	106,483	3,674	77,898
人件費内訳	人工数	2.50	0.86	0.43	0.86
	人件費単価	7,954	8,024	8,024	8,024
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	19,885	6,900	3,450	6,900
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	38,700	63,500	0	63,500
	一般財源	21,737	42,983	3,674	14,398

実施スケジュール							
項目	26年度以前	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度以降
地質調査・基本・実施設計	39,197	66,900	25,550				
工事監理			5,600	29,900	24,500	10,000	
既存施設解体			43,300		34,000		
施設建設			269,200	1,573,700	1,287,500		
外構整備・その他	1,730	4,096	7,130	2,000	324,000	284,300	
年度別事業費	40,927	70,996	350,780	1,605,600	1,670,000	294,300	
財源	国・県支出金		111,300	561,200	516,600	101,600	
	地方債		63,500	196,400	990,200	911,400	179,200
	その他	38,700	4,000	25,000		105,769	
	一般財源	2,227	3,496	18,080	54,200	136,231	13,500
国・県支出金等名称	合併特例債・社会資本整備総合交付金・建設計画推進基金繰入金						

成果指標				
成果指標	事業進捗率(事業費)経過年度進捗÷全体×100			
指標設定の考え方	実施スケジュールに基づき工程管理を行い、目標年度での完成を目指す。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標31年度
目標	0	-	-	100
実績	-	-	-	-

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	<p>実施設計は完了したが、構造適合判定・建築確認申請については、建設場所の用途地域変更手続き完了が2月末となったため、審査に2ヶ月程度の期間を必要とすることから、次年度繰越となり、5月下旬の見込みとなった。また、昨今の人件費・資材価格高騰等の社会情勢により事業費が増加の傾向にあるため、利用可能な補助制度について検討した結果、都市再生整備計画事業を活用し整備することとし、一般財源の支出削減に努めた。次年度早期に事業費の精査を行ない進捗に努めなければならない。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	<p>概ね、実施設計が完了したので既設建築物の解体及び周辺道路・JR踏切の拡幅工事を速やかに着工することとする。複合施設の建設は、議会等に十分説明を行い、予算の確保を速やかに行うことが必要である。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建設事業は分からないことばかりである。支出削減に努めながらも、より良い建設をしていただきたい。 ・40億円かける事業であり、管理運営計画ワークショップなども度々開いている。出された意見や要望には的確、また柔軟に対応できるよう、ご尽力いただきたい。 ・建設費が当初の基本計画より38%も増額となっている。資材高騰はやむを得ないが、市民の要望には際限がない。将来必ずランニングコストはかかるので、締めるところは締める、拒否するところは拒否すべきである。 ・ワークショップは事業目的を達成するための方法や費用対効果を詰めるものだと思う。要望を聞く会ではない。 ・進捗率とすると、工程表どおりにやってもらっただけで検討のしようがない。具体的な施策を指標にすべきである。 ・大規模施設において予算の膨らみがあるのは避けられないことだと思う。
---------------------------	---

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>さらに重点化する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>平成31年夏のオープンに向け、着実に進捗を図ること。</p>